

通信会社は、オンライン資格確認に 補助金36万円の夢を見るか

湯 澤 聡

(みはし医院)

○最初に

当院は、レセコンの導入・保守を外部委託していません。オンライン資格確認（以下「オン資」と略）義務化までに到底間に合わないと落ち込み、廃院も考えました。そんな中で、ORCAのメーリングリストで、多くの先生方（古稀を迎えられた先生も……）が、自力導入をしている事を知りました。今回の記事は、他市町村の医師会の先輩方関連業者といったORCAメーリングリストメンバー様の励ましのもと「細かい事は解らずとも、動けば大勝利」と思い、取り組みました。

今回は、既に導入された方にも参考になる情報を書きたいと思います。

専門用語は全く覚える必要はありませんので、気楽に読んで下さい。なお国からのカメラリーダーが届いていない状態での記事となります。（何とか、レセコンとの連携も出来ていますが、今回は取り上げません）

○オン資格のメカニズム

ポイント：NTT系の光回線でIPV6が使えるものが必要。他の専門用語は覚える必要なし

オンラインでレセプト請求をしているからと言って、必ずしもオン資が出来るわけではありません。「①IP-VPN②IPsec+IKE」の二つの方法で接続しますが、資料は①のものば

かりですので、今回は①の話をします。

IP-VPNが何なのかを知る必要は全くありませんが「NTT系列の光ファイバー網（光回線）」の導入が必須だという事は知っておいてください。「NTTの回線を借りて提供されている光コラボ」は、オン資は使える可能性があります。一番有名なのは「フレッツ光」ですが、ビックカメラで尋ねた所「ネット申し込みだけで、店頭契約は行わなくなった」との事。直接NTTに相談すると、「フレッツVPNじゃないとダメ」返事でしたが、これは大嘘で、通常の「フレッツ光」で接続出来ます。同じ光回線でも、電力系・他社の光回線は使えない可能性が高く要注意です。既にオン資導入済で、同じ光回線だろうと思って安価な他社に切り替えてしまうと、接続出来なくなる可能性があります。

本題である接続のメカニズムです。光回線には、2つの経路があります。次の図を見てください（図1）。

このIPV6が大切で、設定次第で「どこから接続しているのか」という保障も出来るという、大変に優れた規格です。NTTが、発信元を保障してくれるのを利用して、オン資が利用出来るようになっています（図2）。

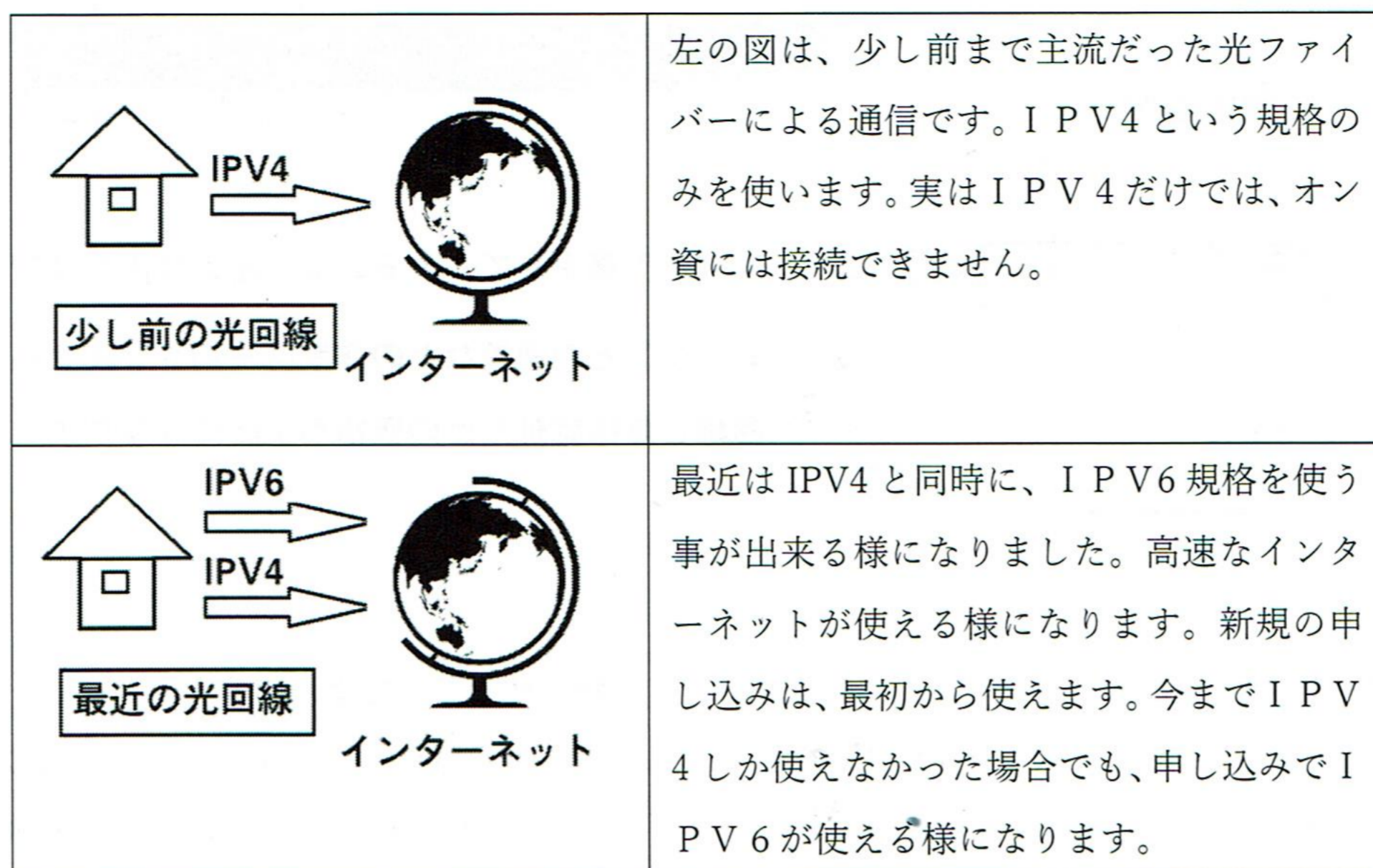


図1

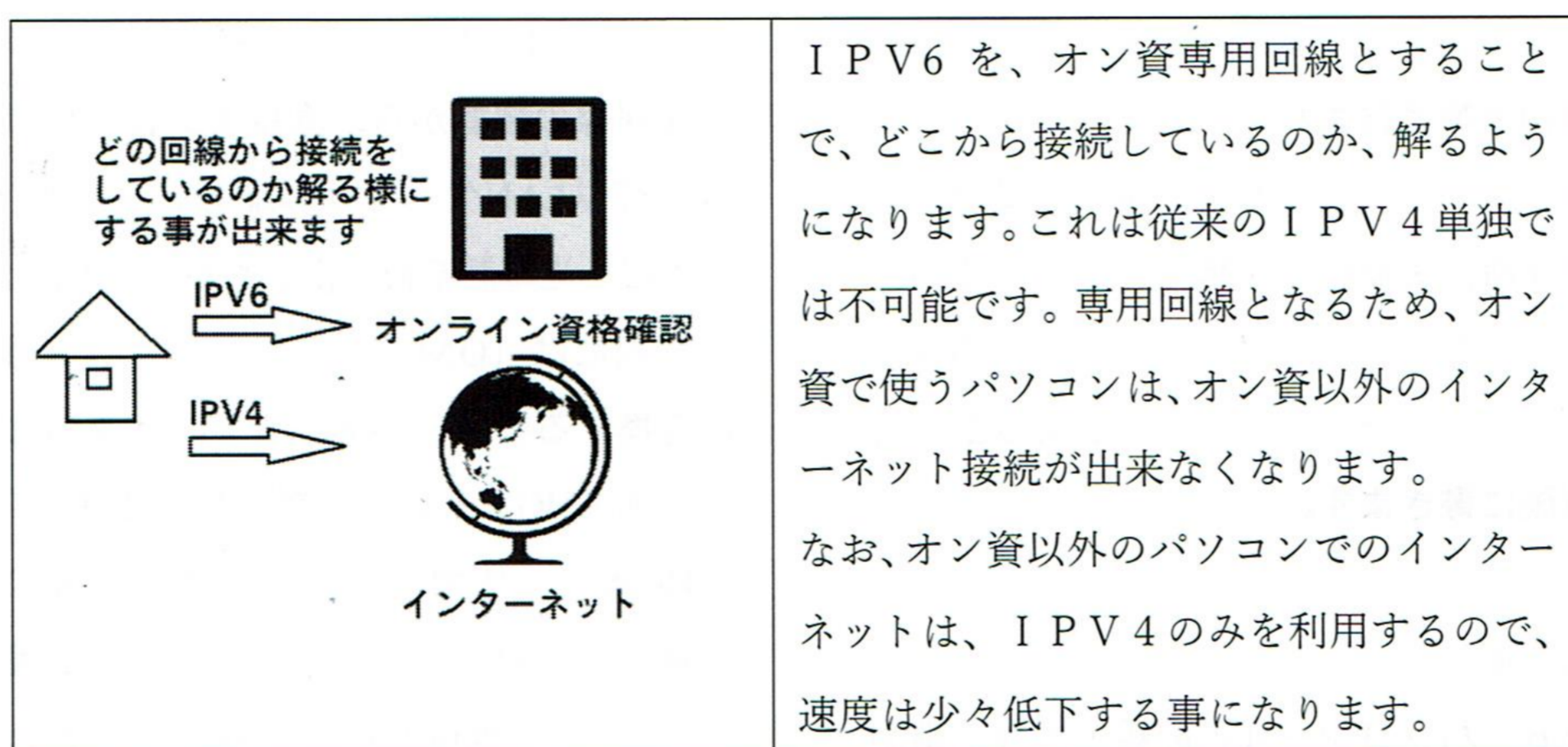


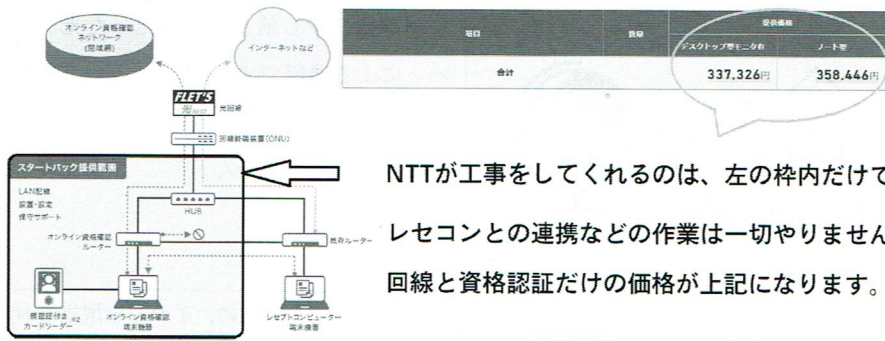
図2

「光回線の装置の設定をいじってしまった」後に接続できなくなった時には、このI P V 4 / 6 の設定が関係していることがあるというのは、知っておいて損は無いです。 (レセコンとの連携には、オン資端末にI P V 4 の設定をする必要があるケースもありますが、ここでは割愛します)

○通信会社のパック (通信会社は補助金の夢を見るか)

ポイント：NTTのパックは、国の補助金の多くがNTTに支払われる

NTT回線でなければ運用が難しい資格確認システム。それでは、実際にNTTがどのような事をやっているかを見てみましょう (図3)。



NTTが工事をしてくれるのは、左の枠内だけで
レセコンとの連携などの作業は一切やりません。
回線と資格認証だけの価格が上記になります。

図3

見積もりを見ると解るのですが、358,466円と「国からの補助金」の大半を、NTTが持って行きます。レセコン改修などの費用の大半は、実質医療機関持ちであるという事です。（既設回線を使った場合の見積もりで、新設だと価格は変わるとおもわれます）他社の回線廃止違約金等は含まれていません。これで保険点数を下げるのですから、国がITに肩入れをする反面、医療機関を痛めつけているのが良く分かります。本当にNTTの回線工事などに、そんなにお金がかかるのでしょうか？答えは最後に書きます。

○必要な物は何でしょうか

ポイント：パソコン一式と配線・回線工事が必要です。

オン資に使うパソコンは、Windows10 IOTです。Windows10 proでも運用が出来ますが、素人は止めた方が良いでしょう。当院は、エプソンドイレクトで、対応表記のある弁当箱サイズのパソコン（スペックは下から2番目）を購入。10万円前後でした。メモリや、ハードディスク・SSD等は、安価な他社製品を自分で組み込む事でコストダウンも計れます。液晶モニターも、新品で数万のものでOKです。NTTのパソコンは、これよりも価格の高

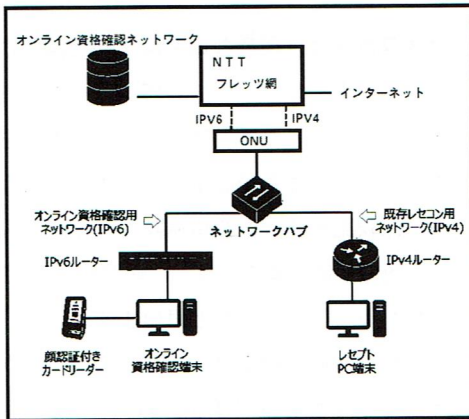
い物を使っているようです。

オン資に特化した専用パソコン（IODATA社APX-MEDICALなど）も、ネット通販などで入手できます。ある程度の設定が済んでおり（全く設定が不要な訳では無い）価格は約20万円。NTTは使ってない様子です。

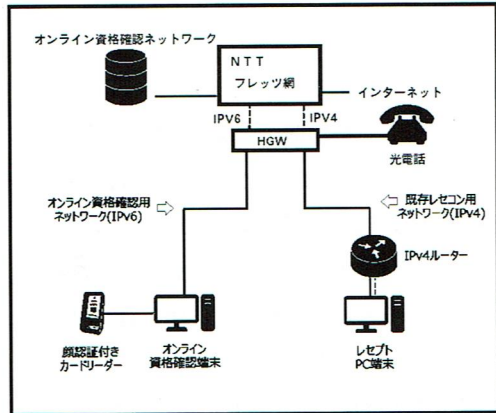
光回線の装置から、直接オン資パソコンにつなぐ「LANケーブルの配線」が必須です。工事は、光電話を使うかどうかで変わります。光回線には「ONU=光信号をパソコン用信号に変換する機械」があります。光電話は、これに加えHGWという装置が付きます。（ONUとHGWが一体型もある）公式説明書は「オン資専用回線として接続する例」しか書いてないので、「専用回線が必要？」と思われるかもしれませんが、そんな事はなく、他のインターネットと共存は可能です。接続の一例をあげます（図4 ヤマハのHPより改変）。

トラブル発生時に「どこの障害か」を考える時に役立ちますので、回線を引いて貰った時は、その図面は必ず手元に残して置いて下さい。

当院は、光電話がある場合の設定となりました。建物が古く、30m以上のLANケーブルを、階を跨いで引き回す「通常あり得ない」配線を行ったので、11万円ほどかかりました



光電話が無い場合



光電話がある場合

図4

カメラを使わない方法は2種類

- 1：目視で確認（暗証番号不要）
タッチ後に、カードの写真を見せて貰い、それと本人が一緒か受付が目視確認します。
- 2：暗証番号を入力
タッチ後に、暗証番号を入力してもらいます。

図5

が、普通は、そんなに掛かりません。LAN ケーブル敷設に免許は必要ないので、自分でケーブルを通す事が出来れば安価に済みます。カテゴリ5というケーブルで十分です。自分で工事をする場合、石膏ボードに穴をあける時は、マスクは必須です。以前に自分でやった時に、石膏ボードの粉を吸い込んで肺炎を起こし、今でも肺に影が残っています。(産業医失格ですね)

○買って置いた方が良い物はなんでしょう？
ポイント：汎用カードリーダーと、テンキーボードをおすすめします。

国が配布しているカメラ付きリーダーは、12万円以上という高価な物です。もし、患者さんが、うっかり台座から落としてしまって壊れてしまえば、医療機関が購入しなくてはなりません。耐用年数が過ぎても同じです。実はカメラ付きリーダーは、必須ではありません。そこで登場するのが、汎用のカードリーダーです。また、機器の設置の場所も取りませんので、受付に余裕が無い時や、機械を増

設・予備機としてもオススメです（図5）。

自院で導入するときには、カメラ無しの方が技術的にも簡単です。

当院で導入した機器は、図6の通りです。

カードリーダーの導入方法は、Youtubeに動画があります。オン資には使えないリーダーもあるので、購入する時には注意してください。オン資の運用を始めると、オン資パソコンでは、他へのインターネットが接続できないので、導入操作の前に接続の設定をするか、別のパソコンで導入のソフトをダウンロードする必要がありますので、ご注意ください。既にオン資が導入されていれば、カードリーダーさえ認識すれば、導入は終わりとなります。カメラ付きとカメラなしを同時に使うことは出来ないという話を聞いており（当院にはカメラ付きが届いていないので確認出来ません）注意が必要です。実際に導入してみると「タッ

チして貰うだけでOKだし、場所も取らない。カメラ付きより便利なのでは？殆どは、かかりつけの人だから……」と感じています。

テンキーボードは、無くても良いとは思いますが、患者さん暗証番号を入力して貰う時や、保険証を使った資格確認をする時の入力にも便利に使えます。自宅に転がってれば、それを使うので十分だと思います。

これらの追加機器は、NTTからのパックには入ってなさそうですが、自腹を切っても7千円はかかりません。補助金の対象にはなると思います。

○買わなくても良いけど、あると便利な物
ポイント：パソコンを使いこなす人はハードディスクデュプリケーター

過去に購入した、ハードディスクデュプリケーターというのも役立ちましたが、これは




 <p>NFC/FeliCaリーダー PaSoRi (パソリ) 業務用途専用モデル RC-S300/S</p> <p>Windows macOS</p> <ul style="list-style-type: none">• 仮想化環境に対応• PC/SC 2.0準拠• macOS対応• LED搭載 	 <p>エレコム テンキー 有線 メンブレン Mサイズ RoHS指令準拠 ブラック TK-TCM011BK/RS</p>	<p>SONY「パソリ RS-C300/S」は5千円前後（JRのSUICAの残高確認・マイナポイント申請にも使えます。</p> <p>テンキーは千円前後の安物でも十分ですが Tab キー付きの物が便利かもしれません。</p>
---	---	--

図6

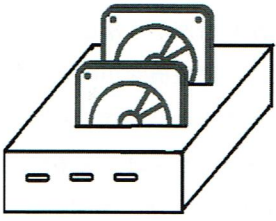
	<p>ハードディスクやSSDの内容を、丸ごとコピーする機械です。ハードディスクなどが故障した時の為に、予備のディスクに、丸ごと内容をコピーしておくものです。パソコンに接続しなくても使えるのが利点で、OSも関係なくコピー出来ます。</p>
---	--

図7

必須のものではありません。商品によっては、クローンケースという名前でも出ているようです。価格は5千円程度です（図7）。

Windows10 IOTは、再インストールディスクがないので、パソコン購入直後や、システムが完成したら、丸ごとデータをバックアップして、故障時には入れ替える事が出来ます。7年以上前のパソコンでノロマなハードディスクで動いていたパソコンも、SSDに取り替えるだけで蘇った事もあり、パソコンに多少詳しい方は、持っていて損はありません。当然、NTTのバックには、入っていません。補助金対象とならない気がします。

○自力導入に関しての注意点など

ポイント：今回の記事では書きませんが、ネット上に書きたいと思います。

この原稿が出る頃には、皆様導入済となっていると思いますし、自力導入をする方は、少数でしょう。それでも気になる方のために、ブログ形式で記事を書きたいと思っています。この記事の最後を参考にして下さい。

○補助金36万円の夢を見るか……

ポイント：高すぎるけど、自分で出来なければ頼むしかありません。

当院の場合には、回線敷設に高額な費用がかかりましたが、通常は、ここまで費用はかからないでしょう。オン資導入だけなら、20万前後で出来るのではないのでしょうか。（自己導入の場合は、補助金は、自院を導入事業主とすれば大丈夫だそうです）パソコンに多少通じている方ならば、導入は出来得ると思いますので、知人に頼んでも良いのかもしれない。既にNTT系の光回線を引いておられる方は、更に安くあがります。

本題である「通信会社のバックが36万円分の価値があるか」というと「機械一式を自分で揃えて、ソフトをインストールする手間が面倒」ならば、少々割高でも、御願ひするしか無いという所でしょうか。その原因は「導入マニュアルが不親切この上ない・業者に任せろという前提の厚労省のスタンス」なのは事実です。説明が不十分の上「どこに情報があるのか分からない」のです。この為に、色々な方がユーザーレベルで協力し合っているのが現状です。政府が「医者には金持ちだから、IT業界に金を落とすために自腹を切れ」というのが透けて見え、実に腹立たしいです。

○導入してからのトラブル

ポイント：実は問題は、これから起こってくるのではないかと思います。

カメラ付き機器で、Windowsアップデートの後に不具合が生じるなども報告されています。重装備になればなるほど、トラブルは生じやすいもの。汎用タッチ式リーダーは、安価で、自分で簡単に導入できるので（機械を買ってきて、ドライバーを入れるだけ）、トラブルも生じにくく、予備機としてもオススメしておきます。

一方で、通信会社のトラブルも問題です。光回線の通信障害も報告されているとか、災害時の停電で光回線が使えなくなるなど、通信・電気のインフラが正常で無いと動かないシステムです。この冬の豪雪で停電していた医療機関がありました。診察が出来ないことになります。

「端末操作をする人は善人のみ」という性善説でシステムが出来上がっており、セキュリティはガバガバに感じます。医師会の他の先生からは

「投薬内容・通院中の医療機関のデータも丸見え。電子処方箋で、顔見知りで無い薬局の人にデータを見られるって、どうなんだろう。外資の通販サイトが薬局を始めたら不安」という声が出ております。

当院はレセコンにORCAを使っていますが、枝番・負担上限等を、自動でチェックしてくれるようになっており、それは便利だと感じています。ですが、対応が不完全で、マニュアルの出来も良くありません。現状では使い勝手に少々難がある、動作に不安があるのも事実です。

○最後に

カメラ付きリーダーが届かない医療機関も多いのに、3月末までに義務化は、本来現実的はありません。今後同じような調子で、電子カルテ義務化・電子処方箋義務化を言い出したら、廃院の検討に入る医療機関も多くなりそうです。厚労省は、ITでコストダウンが計れると思っているようですが、その前には多くの開業医の屍が横たわっている気がしてなりません。危機管理という面でも、お粗末という気はしております。

以前、医師会での仕事を一所懸命手伝ったのに「さすがオタクだ」という心無い一言に、大変傷ついた事があります。今回の記事を書くのも、更に中傷を受ける事があるかと思うと大変気が重い物でした。それであっても、オン資の機械が壊れた・トラブルが起きた時に、なんらかの役に立てたらと良いなあと思ひ、ページをお借りした次第です。

自力で導入する場合などに関する、補足の情報のURL

オンライン資格確認導入の小ネタ

<https://onshi.wp.xdomain.jp/>



(注：当医院が管理できなくなったときには、ホームページを閉じますので、予めご了承下さい)

追記：今回取り上げたカードリーダー「RC-S300/S」は、日本医師会「医師資格証」には、非対応です。対応リーダーは、下記をご覧ください。

<https://www.jmaca.med.or.jp/service/>

